

関東中学校ソフトテニス大会出場規定

関東中学校体育連盟ソフトテニス競技委員会

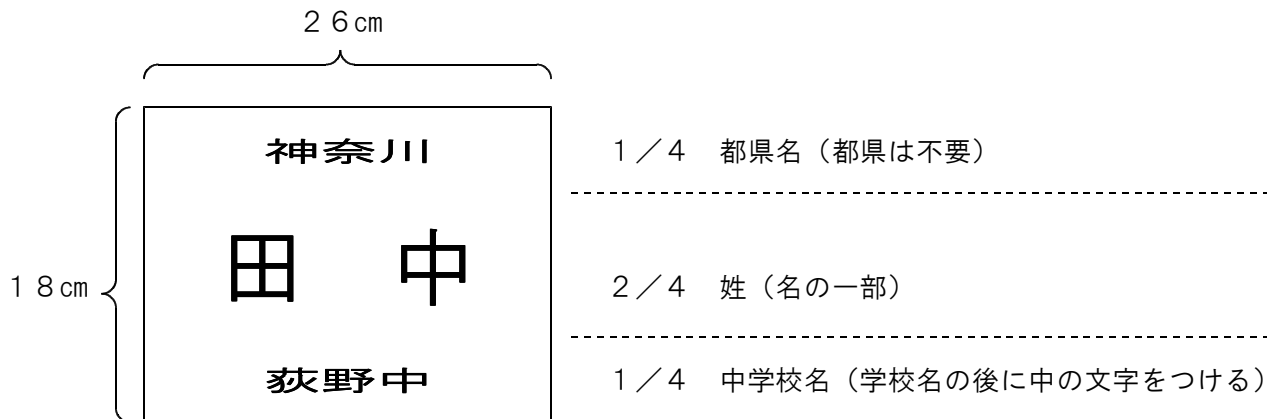
1 服装 競技中および開会式・閉会式・表彰式では次のとおりとする。

(1) 選手

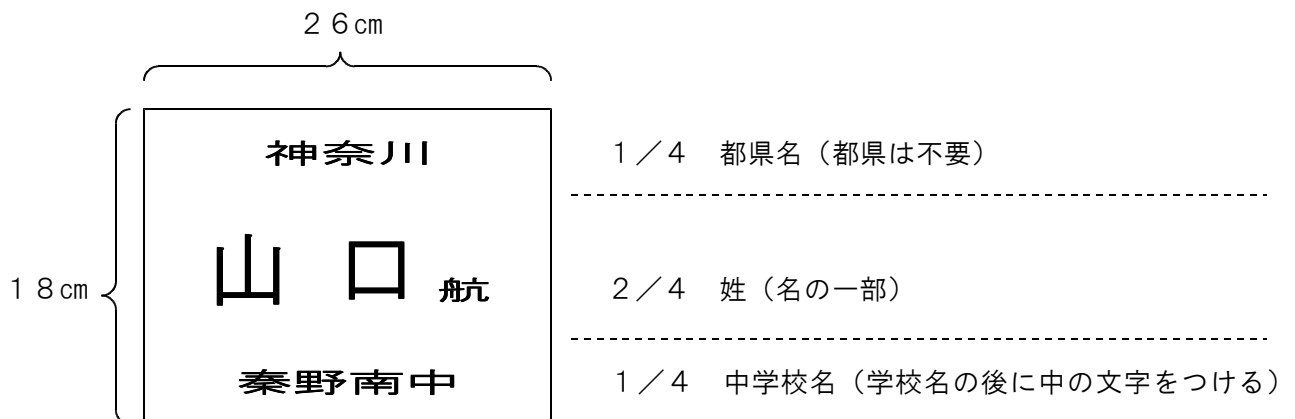
- ① ユニフォームについては、上は襟付き半袖スポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装は華美にならないようにする。競技中、シャツの裾を外へ出したり、袖をまくることはしない。また、ユニフォームには文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。
- ② ソックスの長さについては、くるぶしより上で、シューズを履いた状態でどこから見ても履いていることがわかる長さとする。ハイソックスは認めない。
- ③ テニスシューズを着用する。靴や靴紐の左右を色違いにするなどは認めない。
- ④ ハチマキには、正面に特別な文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、ハチマキの端の部分に「学校名・名前」を記入してもよい。帽子、サンバイザーもこれに準ずる。
- ⑤ 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中の中央につけること。ただし四隅を留めるものとする。すでにプリントされている文字は隠すように留めつけるものとする。
 - (ア) ゼッケンは、B5版横（白地）の大きさの布に都県名、姓、学校名を記述する。都県の「都県」の文字は付けないものとする。
 - (イ) ゼッケンの文字は「漢字」「ひらがな」「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。
 - (ウ) 都県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工夫をしてもよい。
 - (エ) ゼッケンの文字の位置は《例1》どおりとし、同一校に同姓の選手がいる場合には、どちらかの選手が《例2》のように名前の一部も付け加える。
 - (オ) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合には、学校名をわかりやすくするために、《例2》のように学校所在地を付記してもよい。
 - (カ) 学校名が「〇〇中学校」の場合は「〇〇中」と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については、「中」をつけずに、適当な表記で表現する。
 - (キ) 次の図のように（公財）日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

【選手のゼッケン】

《例1》 神奈川県 厚木市立荻野中学校 田中 祥章



《例2》 神奈川県 秦野市立南中学校 山口 航



⑥ その他

- (ア) 所有者を表示する場合を除き、ウェア・用具類への文字や記号の書き込み、印刷、刺繍は禁止する。また、選手の腕等へのペイント、文字の書き込みは禁止する。
- (イ) 装飾品を身につけての出場は禁止する。
- (ウ) 医療用具（サポーター、テーピング、熱中症や紫外線対策としての長袖アンダーシャツやスパッツ）の使用を認める。ただし、所定の医療用具使用届を必ず提出する。アンダーシャツ等の色は単色、ハチマキは単色無地、サポーター・テーピング類は白・黒・肌色などとする。
- (エ) 使用する用具は服装と同様に華美にならないようにする。服装・用具において、ラメ入り、リボン・フリルなどの装飾付きのものは華美とみなす。
- (オ) スtringの色は縦横同一色とすること。
- (カ) 大会会場ではIDを身につけておくこと。

(2) 監督・外部指導者（コーチ）

- ① ベンチ入りおよび開会式・閉会式・表彰式のときは、襟付きスポーツシャツを着用する。

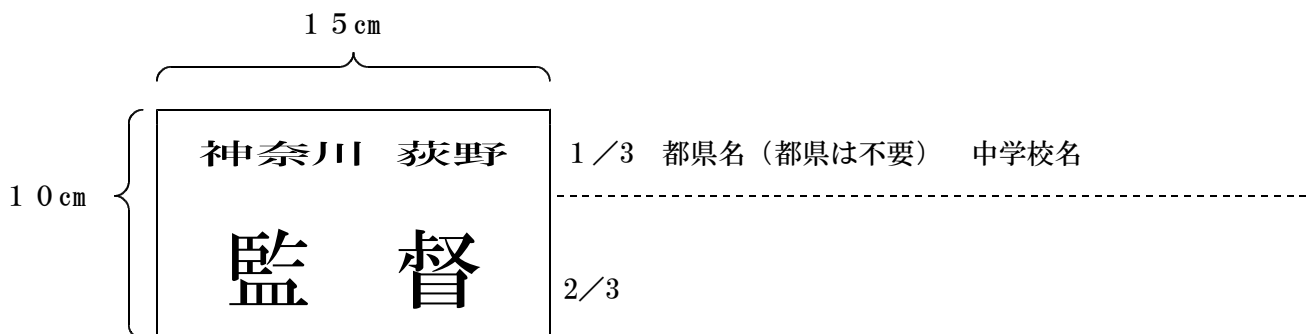
② テニスシューズを着用する。

③ 左胸にゼッケンをつけること。

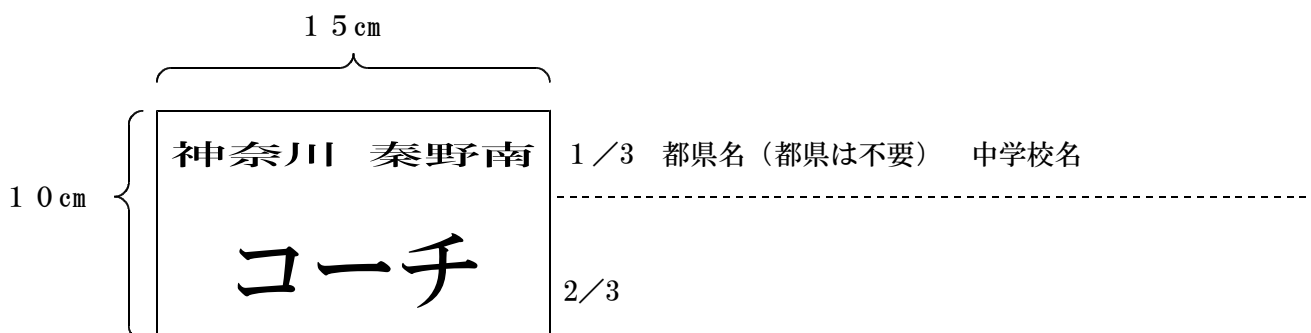
(ア) ゼッケンの大きさは縦10cm、横15cmの布製とする。都県名、中学校名、「監督」または「コーチ」と記述する。

(イ) 都県名、中学校名の表記の仕方は、選手に準ずる。校名の後ろに「中」はつけなくともよい。また、文字、生地の色は特に指定しない。

【監督のゼッケン】



【外部指導者（コーチ）のゼッケン】



2 選手変更について

(1) 個人戦で、1名が病気等で出場不可能となった場合には、「参加選手変更届」を出場校の校長より都県委員長を通して、原則として監督会議が始まるまでに大会本部に届け出る。

(2) 個人戦で、そのペアの2名ともが出場不可能な場合には、各都県大会の成績に基づいて都県委員長が次のペアを推薦し、大会本部に届け出る。

(3) 団体戦で、申込後にメンバーを変更する場合には「参加選手変更届」を出場校の校長より都県委員長を通して大会本部に届け出る。原則として監督会議が始まるまでとし、その後の変更は認めない。

3 大会受付をして、個人戦、団体戦ともに初日の開会式に参加すること。

4 大会期間中の負傷、疾病については応急処置のみを行う。また、本大会は独立行政法人日本スポーツ振興センター法の定めを適用する。なお、大会参加者は健康保険証を持参することが望ましい。